

完了後の評価個表

整理番号 4-1

事業名	森林居住環境整備事業	都道府県	徳島県
ふりがな 地区名	かいなん ししくい 海南・穴喰	事業実施主体	徳島県
関係市町村	海陽町（旧海南町・旧穴喰町）	管理主体	海陽町（旧海南町・旧穴喰町）
事業実施期間	H16～H20（5年間）	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的

① 位置等

当地区は、徳島県の南部に位置し、西は高知県に隣接し、南は太平洋に面した海部郡旧6町のうち旧海南町と旧穴喰町で構成されている。気候は、年平均気温16.1度、年間平均降水量約3,000mmであり、温暖多雨な気候から豊富な森林資源に恵まれており、古くから県内有数の林業地域である。

② 森林の状況

当地区の森林面積は28,201haで、林野率93.6%と徳島県の林野率76%を大きく上回っており、その内訳は国有林面積が26,995ha（95.7%）となっている。また、当地区の森林面積のうち、76.4%が人工林であり、徳島県平均の63%を上回っている。
なお、当地区の森林面積のうち、12,657haが保安林（水源かん養保安林11,799ha、土砂流出防備保安林858ha）に指定されており、適正な森林整備による森林の公益的機能の高度発揮が期待されている。

③ 当地区を整備する目的・意義

地域における生活環境の整備状況として、上水道では簡易水道が普及しているものの、山間部では自然取水の箇所もある。さらに河川の上流域では、森林資源の充実から古くから林業が盛んであるが、林道密度は11.6km/haと県下平均15.0m/haに比べて低い。また、地域林業は長引く林業不振や材価低迷による収益性の低さ、後継者不足と地域の高齢化進行など、取り巻く環境は厳しさを増している。
これらのことから、徳島県が推進する「次世代林業プロジェクト」の推進を通じた、高性能林業機械の導入や、整備が必要な森林への到達時間の短縮、労務者や資材の効率的な移動等による森林施業コストの低減と効率化・水源かん養の高度発揮を目的として、森林整備を促進するために必要な基盤整備を積極的に実施した。

（事業概要）

森林基幹道整備

①神野内妻線	車道幅員	4.0m	開設延長	140m	利用区域面積	648ha
②霧越平井線	車道幅員	4.0m	開設延長	243m	利用区域面積	121ha
③神野玉笠線	車道幅員	4.0m	開設延長	2,023m	利用区域面積	509ha
④石吹越線	車道幅員	4.0m	開設延長	765m	利用区域面積	2,794ha
⑤広岡池ヶ谷線	車道幅員	4.0m	開設延長	726m	利用区域面積	592ha
⑥谷山霧越線	車道幅員	4.0m	開設延長	1,196m	利用区域面積	1,385ha
⑦禅僧線	車道幅員	4.0m	開設延長	460m	利用区域面積	1,090ha

総事業費 1,473,900千円 （当初総事業費 1,760,000千円）

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	平成26年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 総便益（B） 4, 145, 939千円 （事業採択時 3, 073, 258千円） 総費用（C） 2, 253, 813千円 （事業採択時 1, 770, 000千円） 分析結果（B／C） 1. 84 （事業採択時 1. 74 ）
② 事業効果の発現状況	林道開設に伴い利用区域内での移動時間の短縮が図られ、施業地から市場までの運搬時間の短縮やコスト削減が図られた。 当地区は山間奥地に集落が点在しており、林道開設によりインフラ整備が進行し、地域住民の安心安全につながり生活環境の向上が図られた。 また、生活道として林道を利用することにより、災害時や火災等の防災機能としての利用が期待され、地域住民の安心が得られた。
③ 事業により整備された施設の管理状況	各林道は、海陽町が定めた林道維持管理規定に基づき適正に管理されており、維持管理状況は概ね良好である。

④ 事業実施による環境の変化	林道整備により施業地及び市場までの移動時間の短縮が図られ、林業従事者の作業条件が改善された。 また、収益性改善による森林施業への関心が高まり、当事業実施後は森林施業が増加傾向にある。 なお、各林道における野生動植物への環境悪化や溪流における水質悪化等の影響は見受けられない。
⑤ 社会経済情勢の変化	林道の整備により高性能林業機械の利用や大型運搬車両による搬出が可能となり、作業コストの低減が図られ生産性が向上した。
⑥ 今後の課題等	森林施業の実施に対する期待は高まっているが、地域の過疎・高齢化の進行による後継者不足などが懸念される。 地域の主要な産業として林業が確立し、地域の雇用の場として位置づけられるためにも基盤整備の促進による森林整備をより推進し、森林施業の実施に向けた普及啓蒙活動を行い積極的な施業促進を図る必要がある。 ・地元の意見： 林道整備に伴い、森林への移動の負担が軽減され施業推進への方向性が高まっている。森林施業実施の普及啓蒙活動を行い積極的な施業促進を図りたい。 (徳島県) 林道整備が整い、施業の集約化、高性能林業機械の導入を進めて効率的な森林施業の推進を図りたい。 (海陽町)
評価結果	・必要性： かん 森林整備を効率的に行う基盤となる林道路網整備や、森林施業の実施による水源涵養や山地防災等の公益的機能の高度発揮が求められていることから、事業の必要性が認められる。 また、当地区の多くは山間奥地であり、集落は急峻な山間斜面に点在しており、このことから地域のインフラとして地域住民の期待が大きく、事業の必要性が認められる。 ・効率性： 地域独特の急峻な地形と脆弱な地質など厳しい自然条件のもと、現地に応じた最も効率的かつ効果的な工種工法を採用し事業を実施するとともに、残土を活用した補強土壁工の積極的な採用や間伐材の有効利用など、コスト縮減に努めることで事業効果が発現されており、事業の効率性が認められる。 ・有効性： 林道整備により森林へのアクセスが容易になり、森林施業を実施するコストも縮減され、また、災害時には地域の迂回路としての機能が期待できるなど、事業の有効性が認められる。

整理番号

4

便 益 集 計 表

事業名: 森林居住環境整備事業

都道府県名: 徳島県

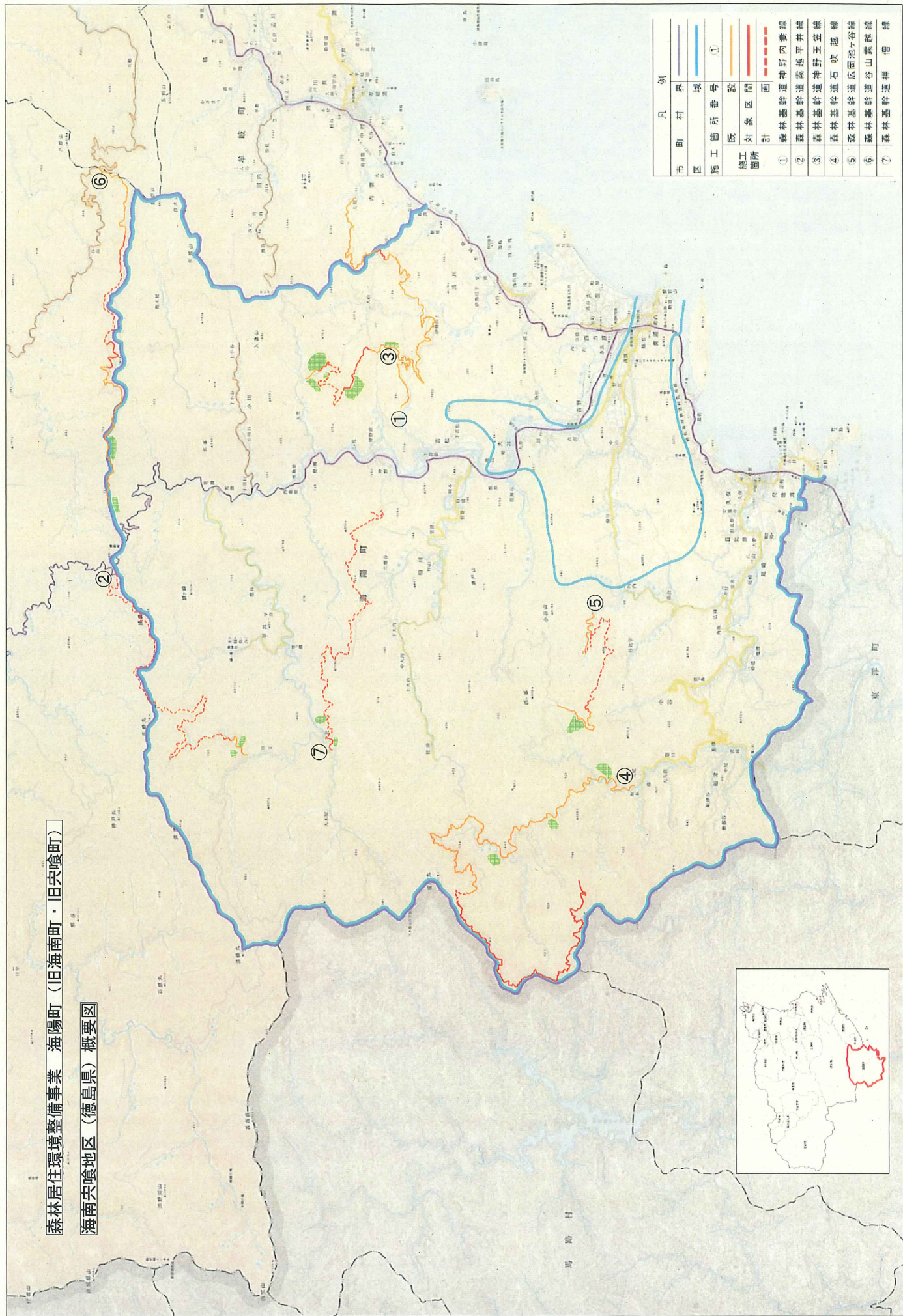
地域(地区)名: 海南・宍喰

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	288,285	
	木材利用増進便益	1,101,651	
	木材生産確保・増進便益	1,164,321	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	955	
	森林管理等経費縮減便益	70,273	
	森林整備促進便益	1,520,454	
総 便 益 (B)		4,145,939	
総 費 用 (C)		2,253,813	
費用便益比	$B \div C = \frac{4,145,939}{2,253,813} = 1.84$		

森林居住環境整備事業 海陽町 (旧海南町・旧大喰町)

海南大喰地区 (徳島県) 概要図



凡 例	
市 界	市界
区 界	区界
町 界	町界
村 界	村界
工 業 区 画	工業区画
農 業 区 画	農業区画
計 画 区 画	計画区画
① 森林整備推進計画区域	① 森林整備推進計画区域
② 森林整備推進計画区域	② 森林整備推進計画区域
③ 森林整備推進計画区域	③ 森林整備推進計画区域
④ 森林整備推進計画区域	④ 森林整備推進計画区域
⑤ 森林整備推進計画区域	⑤ 森林整備推進計画区域
⑥ 森林整備推進計画区域	⑥ 森林整備推進計画区域
⑦ 森林整備推進計画区域	⑦ 森林整備推進計画区域